

## P2-008

## ファミリー・サポート・センター事業の活動におけるサポーターのやりがいと活動のために期待する支援

齋藤 美紀子<sup>1</sup>、中村 祥子<sup>1</sup>、吉川 由希子<sup>2</sup>、山野内 靖子<sup>3</sup>、齋藤 史恵<sup>4</sup>、中久喜 町子<sup>1</sup><sup>1</sup>青森中央学院大学看護学部<sup>2</sup>敦賀市立看護大学看護学部<sup>3</sup>八戸学院大学健康医療学部 看護学科<sup>4</sup>弘前学院大学看護学部 看護学科

## 【目的】

ファミリー・サポート・センター（以下センター）で援助を提供している提供会員（以下、サポーター）のやりがいと活動のために期待する支援について明らかにする。

## 【方法】

対象者はA県内4か所のセンターに登録し、子どもの預かりを行っているサポーターとした。同意の得られた対象者へインタビューガイドに基づいた半構造化面接を実施し、音声データから逐語録を作成して内容を帰納的に分類、整理した。倫理的配慮として、協力者に研究の趣旨と協力の自由意思、研究協力同意後の撤回の自由、匿名性の保持、データの適切な保管と廃棄などを説明し、同意書の署名によって同意を得た。本研究は所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。なお本研究に関わる利益相反はない。

## 【結果】

サポーターは15名で全員女性であった。年齢は30代～60代で平均年齢54.5歳、サポーター歴は3～20年で平均活動年数は9.46年であった。活動のやりがいについては意味内容の類似性に従い整理した。その結果、サポーターは活動を通して子どもとの良い関係を形成すること、子どもの成長が見られること、幸せそうな親子を見ること、親から感謝の言葉が聞かれること、役に立つ自分を実感すること、他の子どもを預かることによって自分と家族が変化することなどをやりがいとしてあげていた。サポーターが活動のために期待する支援は多岐にわたっていたが、活動周知のための広報、サポーターの増員、利用料の補助、保険の充実、病児預かり活動の拡大、活動場所の柔軟化などがあった。

## 【考察】

サポーターの活動のやりがいとして、子どもに関連することが多く、子どもとの良い関係や子どもの成長をあげるサポーターが多かった。また親からの感謝の言葉がやりがいになっている例が多く、感謝の言葉によって親のためにやってあげられる自分であること、親の役に立っていることを実感して活動している状況がうかがえた。サポーターが活動のために期待する支援は、センター事業に関わらず子育て支援一般から両親の働き方に至るまで多様であった。活動に関連する支援としては、サポーターとしての実際の活動から、認知度の低い活動の周知、活動に必須なサポーターの増員、比較的高額な利用料に対する経済的補助、活動場所や活動内容の拡大などを期待していることがうかがえた。本研究はJSPS科研費（JP16K12166）の助成を受けて行った研究の一部である。

## P2-009

## ファシリテーションによる産後早期の子育て家族支援－「赤ちゃんを創るわたしの家族」プログラムの意義と効果－

大豆生田 千夏、齋藤 幸子、檀田 紋子、伊志嶺 美津子

子どもと家族支援研究センター

## 【目的】

子育て支援の中でも外出が難しく孤立した子育てになりやすい第一子出産後早期は虐待リスクが高く、全ての家庭に予防的支援が望まれる時期である。子育てをスタートし新しい家族を創るこの時期に、指導型ではなく、Nobody's Perfect Program（以下、NP）の親自身の主体的な力を支えるファシリテーション技法を用いた支援が必要と考え、筆者らは「赤ちゃんを創るわたしの家族プログラム（Family Start 通称FS）」を2009年から開発、Y市子育て支援拠点の協力を得て実践しながら改良を重ねてきた。その意義と効果を検討する。

## 【方法】

プログラムは参加型、緩やかな半構成スタイルで、事前と毎回のアンケートの回答等による参加者のニーズに応じて柔軟に内容が構成される。対象は2017年に2施設で行った5回のプログラムの参加者、申し込み時に生後2～4か月の第一子とその母61組。講座4日目の最終アンケートの設問「プログラムに参加してもっとも役に立ったこと、赤ちゃんに対する思いや接し方などへの変化」への記述回答をKJ法で分類、分析を行った。

## 【結果と考察】

プログラム全体の評価は、最も評価の高い「とても満足」が89%、「まあまあ満足」と合わせると肯定的評価は100%となった。設問への回答から、他の母親の話が聞けた、悩みの共有、子育てに余裕、気持ちが楽になった等の16項目を抽出し、それらを「情報、知識の習得」「仲間関係の構築」「リフレッシュ・安心効果」「価値観の変化」という大きな4つのグループに分類した。その内容は、情報交換や手遊び、児への接し方等の「情報、知識の習得」、集う中で互いに話を聞き合える「仲間関係の構築」であり、「安心」して悩みを共有しあえ気持ちが楽になり、接することが「リフレッシュ」となっている。さらに夫との関係を捉えなおし、多様性を受容し、子ども理解を深め自分なりに育児を楽しむという「価値観の変化」が起きている。ファシリテーションによって支えられる参加型プログラムで、親同士が安心して繋がり、自信をもって主体的に家族を創る一歩を踏み出している。支え合い、互いの経験から学ぶNPの手法により、それぞれの個性豊かな家族の在り方が尊重され、自己肯定感の向上についても多くの参加者が言及。産後早期に親を主役とし個人の多様性と創造性を尊重する本プログラムの意義と予防的効果は大きいと言える。